

学校農業クラブ活動を通じた、実践的な教育活動に関する取り組み

兵庫県立有馬高等学校
教諭 長光 雅実

学校農業クラブ活動を通じた、実践的な教育活動に関する取り組み

1 取組の内容・方法

農業高校には学習指導要領にも位置づけられている「学校農業クラブ」が存在する。学校農業クラブは全国の農業系高校生約 90,000 人が加入する組織で、正式名称を日本学校農業クラブ連盟〔Future Farmers of Japan〕という。平成 29 年度、兵庫県は 11 校の単位クラブ（農業を学べる高校）、2,767 人のクラブ員（農業高校生）が所属している。クラブ員は教科・科目での学びにとどまらず、様々な研究活動や地域との交流活動をおこなっている。私は農業高校の教員として赴任して以来 14 年間、学校農業クラブ活動を通して様々な活動を行い、生徒とともに成長してきた。その中のいくつかの事例を紹介する。

(1) ため池の利活用を通じた地域との交流活動（平成 16 年～平成 21 年 県立農業高校にて）

農業用水の確保のためにあるため池は、県内に約 40,000 個あり全国一の数を誇るが、都市化による農地の減少等が理由で数が減少している。また残ったため池も周囲が住宅や工場に囲まれているものが増え、周辺住民と水利組合（農家）との意思疎通も問題となってきた。

ため池は農業用水という役割の他に、洪水防止や防火用水、貴重な動植物の生息場所、人々の憩いの場所にもなり、農業に従事する者以外にとっても重要な意味を持っている。そこで高校内に農業クラブ専門班「ため池調査班」を立ち上げ管理者である農家（水利組合）と周辺住民との距離を縮める活動を生徒とともに行った。

活動では、地域にあるため池の改修工事の際、その計画策定に生徒が参加し、話し合いを重ねたり、水耕栽培により池で野菜（空心菜）を生産することで、水質浄化と食料生産を両立させる取り組みなどを行った。さらに「いなみ野ため池群を世界遺産に」をスローガンに様々な会議やイベントへの参加、研究・活動発表、競技会への出場を通して積極的に情報発信した。



**2年目の野菜イカダ設置
（稲美町 天満大池）**



**地元の方と空心菜収穫試食会
（加古川市 峠池）**

(2) 農業クラブ各種競技会を通じた、農業担い手育成に向けた取り組み（平成 22 年～）

学校農業クラブ活動の一つに、日頃の学習の成果を競う合う各種競技会が存在する。具体的には農業鑑定競技、プロジェクト発表競技、意見発表競技、家畜審査競技など農業に関する専門的な知識や技術を競い合う様々な種目があり、校内予選会を経て県大会、近畿大会そして全国大会での最優秀賞を目指しクラブ員（生徒）は熱心に取り組んでいる。私はこの各種競技会の指導を通して、生徒に農業への興味関心を高める教育、そして将来兵

庫県の農業の担い手となる人材育成に努めてきた。

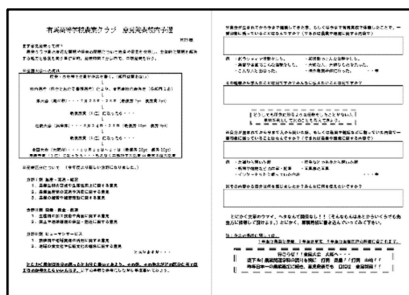
特に現任の有馬高校では、農業鑑定競技と意見発表競技に力をいれている。農業鑑定競技は、目の前に並べられた植物体や栽培用具、病気や害虫などの実物を短時間で判別し、問われた問題を解答する競技であり、幅広い知識が問われる。指導においては、入学時より「農業と環境」の授業を通して意識付けを行い、自主的な学習ができる環境作りに努めてきた。そして結果を残してきた先輩方にあこがれを持つように導き、毎年全国制覇を目指す生徒が出てくるようになり、平成27年度には全国大会に出場した生徒が文部科学大臣賞を受賞し、農業系の国公立大学への進学を達成できた。

また、高校での農業学習を通して学んだり考えたりしている身近な問題や将来の問題について、抱負や意見をまとめ、観衆の前で発表し、その内容や発表の仕方を競い合う意見発表競技では、生徒の考えや将来の目標をまとめやすくなるワークシートを作り、全ての生徒に書かせることで、気付かなかった自分の可能性が発見できる工夫をしている。そして本校の代表となった生徒の指導においては、「練習で120%、本番で100%の力を出す」を合い言葉に、繰り返しの指導

で自信をつけさせることを心がけている。その結果、多くの生徒が全国大会への出場を果たすとともに、平成26年度には全国大会に出場した生徒が「全国農業担い手サミット in ひょうご」にて、全国の農業高校生代表として皇太子殿下の前で意見発表を行い、現在は新規就農者として活躍している。



**農業鑑定競技校内予選会
(有馬高校内)**



意見発表競技ワークシート

(3) 兵庫県学校農業クラブ連盟主任顧問として、事務局運営（平成29年度）

兵庫県学校農業クラブ連盟の事務局は、県内の農業高校が持ち回りで運営されている。県内農業高校の学科数の減少に伴い、今年度初のブロック開催（小規模校が数校協力して事務局運営する。今年度は有馬高校が主担当校となり、篠山東雲高校・篠山産業高校と合同で運営）による運営となった。主な行事は以下の通りである。

理事会（5月・2月）

県下11校の単位クラブ会長・副会長が集まり、生徒が主体となり兵庫県学校農業クラブ連盟の活動方針や県連盟事業、県大会などの運営方針について話し合ったり、他校の生徒と交流を行った。

リーダー講習会

県下11校の単位クラブ本部役員を中心に、各単位クラブのリーダー131名が参加した。午前中は有馬高校で、各校農業クラブ活動の活性化を目標にクラブ活動発表会を開催した。各校の農業クラブ活動について発表し合うことで、お互いの活動に刺激を受けたり参考に

したりすることで兵庫県全体の活性化につながった。

午後からは分科会を開催した。今年度は有馬高校の特色である環境学習を中心に企画し、県立有馬富士公園を活動場所として、里山管理体験や植物・昆虫観察会などを企画した。最後の全体会では、各分科会の報告を、写真を用いて行い情報を共有した。他校生とも交流でき、良い時間となった。



**リーダー講習会分科会
里山管理体験**

・第65回兵庫県学校農業クラブ連盟大会

別名農業高校の甲子園と呼ばれる、農業クラブ連盟大会。開会式では三田市長、谷公一衆議院議員を始め多くのご来賓をお招きし、各校単位クラブ旗入場を始め盛大に開催された。午後からは本校事務局生徒を中心に、プロジェクト発表競技会、意見発表競技会、農業鑑定競技会が滞りなく実施され、京都で開催される近畿大会、岡山県で開催される全国大会へ駒を進める兵庫県代表者が決定した。

・新しい農業を目指す高校生等の集い

将来農業自営、農業関連産業への就職を考えている生徒が集まり、地域で活躍、成功されている先輩農業者をお招きし、将来の進路実現につなげる事業である。今年度は160名のクラブ員が参加し、阪神農業改良普及センター管内の先輩農業者5名に参加いただき、ご講演、並びに座談会を開催した。さらに集いでは、兵庫県若手地域農業リーダー育成事業（ブラジル研修）の報告や、県立農業大学校、楽農センターの紹介も行われた。



先輩農業者を囲む座談会

2 取組の成果

教諭として勤めた16年のうち、14年間農業クラブ顧問（13年間単位クラブ顧問、本年度は県連主任顧問）として生徒を指導してきた。また、毎年各種競技会の指導に携わり、生徒の力を伸ばしてきた。学校農業クラブ活動を通して指導し、生徒が活躍した競技会などの成果ならびに県連盟主任顧問としての成果は以下の通りである。

(1) 前任校（県立農業高校）における主な生徒の活躍

- ・H16 意見発表競技文化生活の部 県優秀賞
第1回グリーンスクール知事表彰受賞
- ・H17 プロジェクト発表競技環境の部 全国大会優秀賞
日本水大賞奨励賞受賞(翌年フランスへ生徒派遣)
- ・H18 意見発表競技環境の部 全国大会優秀賞
- ・H19 意見発表競技食料生産の部 全国大会優秀賞
- ・H20 プロジェクト発表競技環境の部 県優秀賞
- ・H21 意見発表競技文化生活の部 県優秀賞



**EMECST1n フランスにて発表
[世界閉鎖性海域環境保全会議]
(平成18年5月)**

(2) 当該校（県立有馬高校）における主な生徒の活躍

- ・ H22 意見発表競技環境の部 県優秀賞
高校生地域貢献活動発表会 優秀賞
- ・ H23 意見発表競技環境の部 全国大会優秀賞
- ・ H24 意見発表競技環境の部 県優秀賞
農業鑑定競技測定の部 全国大会優秀賞
- ・ H25 意見発表競技食料生産の部 県優秀賞
農業鑑定競技園芸の部 全国大会優秀賞
- ・ H26 意見発表競技食料生産の部 全国大会出場
全国農業担い手サミット in ひょうごにて、農業
高校生代表として皇太子殿下の前で発表
農業鑑定競技園芸の部 全国大会優秀賞
- ・ H27 意見発表競技食料生産の部 県優秀賞
農業鑑定競技園芸の部
全国大会最優秀賞&総合優勝(文部科学大臣賞)
- ・ H28 意見発表競技食料生産の部 県優秀賞
農業鑑定競技園芸の部 全国優秀賞

※プロジェクト発表競技、意見発表競技、農業鑑定競技
は 農業クラブ連盟主催の競技会



**意見発表競技全国大会
(平成26年10月)**



**農業鑑定競技全国大会
文部科学大臣賞受賞
(平成27年10月)**

(3) 兵庫県学校農業クラブ連盟主任顧問としての成果

県全体としては、今後継続的に県連盟事業を継続できるような運営形態を確立した。具体的にはブロック開催の形をつくとともに、事業の学校開催や県連盟大会の1日開催など、事業の簡素化に務めた。

有馬高校としては、今年度県連盟本部役員を務めた生徒は、1学年から事務局運営の準備をしてきた。事務局の運営を通して、農業クラブの3大目標でもある指導性・社会性・科学性が個々の生徒で飛躍的に向上し、本部役員を務めた生徒3名が農学系国公立大学への進学を果たすなど、就職・進学も含め進路実現につながった。

3 課題及び今後の取り組みの方向

競技会においては、引き続き生徒の指導に力を入れていくことはもちろん、継続的に就農を目指す生徒を増やすことを目標としたい。また、若手教員にも農業クラブ活動における効果的な指導方法を引き継いでいきたい。

さらに、平成33年には、兵庫県で日本学校農業クラブ全国大会が開催される。そのなかで有馬高校は、意見発表競技会の実施担当校となる予定である。今回、兵庫県学校農業クラブ連盟主任顧問をさせていただいた経験を活かし、大会の成功に尽力するとともに、大会を通して学校農業クラブ活動の魅力やクラブ員（農業高校生）の成長、活躍を多くの方に知ってもらえるよう工夫していきたい。